

# 平成28年度 政務活動費 先進都市調査報告書

会派名	公明党室蘭市議会
議員名	細川 昭広、砂田 尚子、柏木 隆寿
調査実施年月日	平成29年2月10日(金)
調査先 自治体名等	東京都荒川区
調査項目	「荒川区民総幸福度の取り組みについて」
調査目的	荒川区では西川太一郎区長就任以来「区政は区民を幸せにするシステムである」というドメイン(事業領域)のもと「幸福実感都市あらかわ」の実現を目指し荒川区民総幸福度(GAH)に取り組んでおり、その実施内容及び成果について調査し本市の政策に活かすため。
報告内容 実施したこと	<p>1 視察先(市町村)の概要 人口:212,356人(H28.6.1現在) 行政面積:10.16km<sup>2</sup></p> <p>2 視察内容 荒川区民総幸福度(GAH)とは区民の幸福度を測る指標を作成し区民アンケートによって測定・分析することにより区民全体の幸福実感が向上する区政運営につなげていく取り組みで平成25年10月に第1回の「荒川区民総幸福度に関する区民アンケート調査」を実施し、平成26年7月には第2回調査を実施した。指標は「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の6つの分野46の項目からできており5段階評価で回答するほか自由記述欄も設けている。区民213,000人から満20歳以上の4,000人を無作為抽出し実施。回収方法は郵送または電子申請(インターネット)で行っており、回収数は25年度調査は1,970人、26年度調査は1,910人となっている。2回の回答傾向は、ほぼ同じであるが幸福実感度については幸福を感じないが1.8ポイント減少し、幸福を感じるが0.8ポイント増加していたとのこと。政策としては健康・福祉で飲食店の協力による糖尿病予防対策として「荒川満点メニュー」、「子育て・教育」では保育定員の拡大や区立小中学校でのタブレットPCの活用、「環境」ではバリアフリー重点整備地区の推進、「文化」では図書館と子ども施設等の機能を融合した「ゆいの森あらかわ」整備などに反映。</p>
感想(まとめ) 本市へ活かせること等	本来、幸せの感じ方、度合いは一人ひとり異なり、それを数値化して政策に活かすことは非常に難しい作業と思う。逆に不幸や不安を感じる点を把握しそれを改善する努力を行えば必然と幸福度は高まる。荒川区ではそのような観点から区民の最大公約数の幸福実感上の課題解決に取り組んでいると感じた。過去2回の調査から傾向は変わらないため毎年調査を実施することはないが社会情勢の変化や区政運営の評価も考慮し不定期で調査は実施すること。また、このようなアンケート結果を分析することや政策形成力の向上及び質の高い区民サービスの提供を図るために区が抱える課題等の調査研究、政策提言等を行うシンクタンクとして公益財団法人荒川区自治総合研究所を平成21年11月から区独自で開設しており荒川区の区民サービス向上に対する本気度がうかがえた。本市においても各地区連合町会単位での政策懇談会や地域住民の意見聴取、各団体と市長とのenと一くなどは実施しているが市民全体を対象とした市民アンケート調査なども実施し市民満足度を測ることも必要と感じた。